

# 輝け1年生

~ Now is the time when you shine the most ~

2024.11.8

文京区立第九中学校  
1学年通信  
第21号

今回の期末考査で、みなさんも3回目の定期考査を経験することになります。これからの残り2年ちょっとの中学校生活を考えるとこの定期テストをあと10回受けることになります。さらに3年生では、それ以外にみなさんの実力をみるための「受験」という名のテストが別に入ってきます。そのことは、今のうちに覚悟しておいてください。そこで今回は、今までの定期考査の取り組みで良かった点、反省点をふり返り、今度の期末考査に生かしてもらえればと思います。

さて、昔から『学問に王道なし』ということわざがあります。これは、勉強には全ての人にあてはまる「これだ!」という最高の方法はないということです。人それぞれに自分にあった勉強方法があるのだけでも、それを見つけるのはとても大変で、みんなが苦勞しています。もしかすると、それを見つけるまで、ひたすら勉強するしか方法はないのかもしれない。

## 【勉強方法を変える】

まずは、右のグラフを見てください。これは“エビングハウス”という人が提唱した「忘却曲線」というものです。そこには「人間がいかに“忘れる動物か”」ということが表されています。

縦軸が下になればなるほど「思い出すまでの時間」が長くなります。横軸は「学習してからの日数」を示しています。グラフによると同じ勉強量をこなしても、復習するまでの期間があけばあくほど、思い出すためにかかる時間がたくさんかかることになります。

赤いグラフは一度しか学習しなかったことを思い出した場合を指します。たとえば、せっかく勉強してもその後まったく復習しない人は、6日後には、勉強した「初めて学習したときと同じくらいの時間や労力をかけなければ、思い出すことができない」ということになります。(もちろん個人差はありますが)

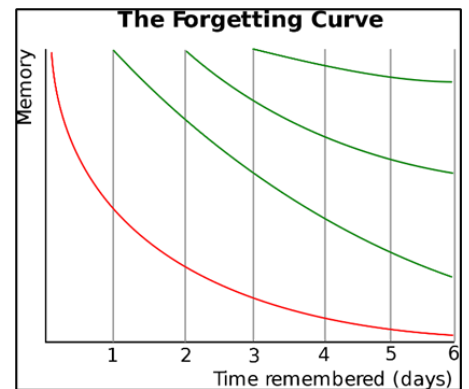
緑のグラフは、翌日に復習、翌々日に復習と、復習する回数を多くした場合のグラフです。3回復習を繰り返すと、学習してから6日後でもほぼ80%のことを覚えていられます。

この研究は「無意味な数字の羅列を覚える」という条件で行われており、実際には人間の脳は「意味のあるものごと」や「興味関心の高いものごと」をより強烈に記憶することが分かっています。みなさんが部活動や塾、習い事などで毎日が忙しいことは知っています。だからこそ、短い時間に自分のできる範囲の中で、「復習の大切さ」を意識した勉強方法を見つけ出すことが重要だということです。

## 【試験の受け方を変える】

ものごとの順番は、「易より難へ」です。やさしい問題から、難しい問題へというのがりこうな人のやり方です。ある年の高校入試で、1時間目の国語の、それも第1問にとっても難しい問題が出たそうです(これも出題者の作戦かもしれません)。その生徒は、「わからない。ああ、困ったな、どうしよう」と目の前が真っ白になってしまい、その後のやさしい問題は、時間不足で手がつけられず、さんざんな結果になってしまったということです。

一番大切なことは「理解できているかどうか」なのですが、残念ながら試験には時間という制約があります。せっかく身につけた知識を採点してもらえないのは、本当にもったいないことです。だから、みなさんにもテストを受けるためのテクニックが、不本意だけれども必要になってくるのです。



## 行事予定

- 11月1日(月) 生徒会朝会(委員長) ①メンター学活
- 11月4日(木) 期末考査(給食なし)
- 11月5日(金) 期末考査(給食なし)